

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4491400067		
法人名	社会福祉法人 安岐の郷		
事業所名	さわやかクラブ むさし苑		
所在地	大分県国東市武蔵町糸原2368-2		
自己評価作成日	令和4年2月15日	評価結果市町村受理日	令和4年8月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和4年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人創立25年を越え、職員一人一人の思いを取り入れて作り上げた理念が今年出来上がり唱和している。「1(あなた)+1(わたし)=∞(無限大)」ち(月)い(火)き(水)と(木)と(金)も(土)に(日)を肝に銘じて職員一同ケアに繋げている。コロナ禍で地域に出向くことが少ない中でも理念に沿うように地域に根付いた、ご利用者に寄り添い、本人の思いに出来ることは可能な限り支援することで、喜びを感じながら、自信をはぐくみ心身ともに元気に暮らしていけるようにしています。施設内では、個人の趣味活動や、全員で取り組む園芸を取り入れ、植物の成長を日々見届けられるようにして、旬の物を収穫することにより季節を感じられるようにしています。その際は、ご自身でできる事をお願いして、動いていただくようにして、また、室内での健康体操を新たに取り入れ手、外出を行わなくとも健康維持や体力作りも行えるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・コロナ禍で少しでも外気に触れる機会を作るため、デッキの芝生に畑を作り季節の野菜やお花を植え、みんなで世話をしている。収穫した野菜は食卓に上ることもあり、楽しみのひとつとなっている。
 ・朝と昼の食事は事業所内で調理している。できる人が出来ることを手伝いながら役割をもち、自立支援をしている。
 ・職員に対する研修を積極的に取り入れ、職員のスキルアップに繋げている。
 ・コロナだから出来ないではなく、コロナ禍でもできることを考え実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ予防対策として全体朝礼を中止にしているが部署内の朝礼時には理念を唱和し共有している。また理念を意識した介護の実践に努めている。年頭よりひとり一人の意見を盛り込んで作り上げた新しい理念を目に付く場所に掲示し実践に繋げている。	法人の理念は今年1月からみんなで考え、新しい理念としている。グループホームでは月曜から日曜までのテーマを作り毎朝意識付けをし、唱和して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍で地域に出向く事が少なくなっているが第三者委員会、運営推進会議などの開催時には事業所の活動や利用者の状況等々をお知らせして住み慣れた地域での繋がりを絶やさない様努めている。	コロナ禍で地域の行事は出来ていないが、自治会長や老人クラブ、民生委員にさわやかだよりを配布している。また、託児所の卒園式にはみんなでプレゼントを作成した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者と一緒に買い物に行ったり地域の行事に出向いたり認知症があっても住み慣れた地域で過ごすことの大切さを理解してもらえ支援に努めている。また、運営推進会議、第三者委員会等で活動等や暮らしを発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の担当、地域の区長や民生委員、老人クラブのかたの出席があり、毎月発行している「さわやか便り」を配布し活動や利用者の状態やヒヤリハット報告している。意見交換で今後のサービス向上に活かしている。	年6回のうち4回開催できた。認知症への理解の説明や災害時の避難の仕方について話し合わせ、夜間の避難時には反射材をつけてはとの意見があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者も出席情報の共有、交換している。又は何かあれば都度、連絡や相談し意見や指導してもらえるような関係を築いている。	グループホームの実情や取り組みは理解してもらっている。必要に応じて連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。法人として勉強会を定期的に行い職員の意識づけをしている。毎日ホームで施錠時間を記録に残している。	定期的な勉強会で何が身体拘束にあたるのかを理解し、毎月自己評価を行い振り返っている。スピーチロックに関しても職員の都合になっていないか、職員の自覚を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人として虐待防止に取り組んでいる。毎月、不適切な介護チェック表を会議で報告し職員同士で注意し合えるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の勉強会に参加し学んでいる。個々に応じた自立支援に向けた必要な制度が使えるよう努めている。成年後見人制度を活用している方もいらっしゃる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には本人、ご家族が安心して契約できるように丁寧に説明し理解していただけるよう努めている。不安や質問なども丁寧に対応している。契約書の改定時についても説明を行ない理解、納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡時にご家族に意見や要望を尋ねるよう心掛けている。。年1回はご家族にアンケートを実施し意見や要望を運営に反映できるよう努めている。ご利用者にもアンケート実施している。	家族会で職員も一緒に食事をしながら話すことが出来ていたが、コロナ禍で面会時や電話、アンケートでの聞き取りとなっている。電話を直通でかけられるようにしてほしいとの要望があった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議には意見や提案を発表できるよう工夫している。又年2回の個人面談があり要望・希望を聞く機会がある。日常的に相談や提案が出しやすい環境作りを心掛けている。	年2回の個人面談を行い、要望や意見を聞く機会にしている。デッキにサンシェードを付けたり、職員の異動の希望などもあった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回考課シートで自己評価し上司との個人面談で意見や要望を表す機会がある。個々にリフレッシュ出来るように年間を通し計画有休が取れるようになっている。向上心を持って働く環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修やスキルアップ研修、資格取得に向けたフォローアップなどがある。力量に応じた外部研修を受けられるようになっている。また、新人研修においてはエルダー制度を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分県のGH・小規模多機能合同の職員研修に参加できる環境がある。コロナ感染予防の為、リモート研修や縮小になっている。他、地域のホットネット、ケアネット等の他事業所との情報交換等を行いサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時にはご利用者を訪問面談し、会話の中より不安や要望を聞き取るようにしている。また、傾聴と共感に心掛けて遠慮なく本人の思いを話せる雰囲気作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来苑時には気軽に話せる雰囲気づくりに努め、ご家族の思いや不安に耳を傾けるように心掛けている。コロナの為、面会制限があり、電話の際にはご利用者の様子をお伝えし、安心していただけるように努めている。ご本人やご家族の要望を取り入れながら、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前のアセスメントでご本人やご家族が、必要としている事や、意向を聞きその時の必要な支援を見極めをしている。また、入所前のCMや医療機関より、情報を収集し、入所後の支援に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干しや、洗濯たたみ、食事の準備や片付け、掃除等出来る事はしていただいている。個々にあった役割を行うことで、日常生活に張り合いを持っていただけるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの感染者が落ち着いている時には、居室での面会や、隔月には状況や近況を手紙でお伝えしている。遠方の方には、電話やリモート面会を行い、信頼関係づくりに努めている。海外からEメールでご利用者や職員と連絡をとっているご家族もいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で以前のように地元のスーパーへの買い物や地域の行事や祭りの参加は行えなくなった。ただし、両子寺への紅葉見学時に、ご自宅に立ち寄ったり、車の窓越しではあるが、ご近所の方とお話をされたりと、馴染みの関係が途切れないように心掛けている。	ドライブでの外出は行われている。自宅近くまで行ったり、紅葉見学などに出かけた。家族や親せきの人に手紙を出して喜ばれるなどなじみの人との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	季節毎の作品作りをご利用者同士で強力し作ったり、読経や体操、学習療法など、レクリエーションにおいても、個別にするもの、大勢で行うものを考えながらご利用者同士の良い関係作りに努めている。座席の配置にも配慮し、ご利用者同士の関係性を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設施設に入所されたご利用者には積極的に声を掛けている。ご利用者もマスク着用をするなど感染対策を行い面会に行き、交流を図り、関係性が途切れないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からご利用者の行動や会話から興味があることや、意向、希望をくみ取るように心がけている。朝礼時などに検討することにより、ご利用者の思いを職員間で共有できるように努めている。	日常の会話の中から思いや意向を把握するようにしている。職員を担当制にし家族に手紙を出したり、利用者同士の会話の中や生活歴なども参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や入所前の担当CM、ご本人からもこれまでの生活の様子を聴き取り、アセスメントシートに記入している。職員が把握し、ケアに取り入れることで、入所後も望む生活を継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日のご利用者の様子は、総合記録に記録している。変化のあったことはワーカー日誌に記録し朝礼でも検討することにより、状態把握を行い、情報共有に努めている。生活歴等から、生活リズムで一人一人の有する能力を発揮できるように役割作りに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人やご家族に意向の確認を行い、ケアプランに反映させている。モニタリングは3ヶ月ごとに行い、カンファレンスを開き、意見を出し合いプランに繋げている。また、日常的に気付きを職員間で共有しケアに繋げている。	3か月に1回担当職員と一緒にモニタリングを行っている。短期目標は6か月に1回家族の意見も取り入れながら見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	総合記録にその日の様子、バイタル、食事、水分摂取量、排泄、入浴、ケアプランの実施状況等を記録し情報共有を行っている。状態変化があれば、都度、職員間で、検討し介護計画の見直しやケアに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの変化には状況に応じて可能な限り柔軟に対応している。必要に応じて、歯科衛生士、PT、栄養士にも相談、協力することにより、多職種連携でサービス提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事や地域のイベントに参加したり文化祭に利用者と一緒で作成した作品を出品したり、出来るだけ地域の中に出て行っている。ご利用者も馴染みの場所や馴染みの顔見知りに出会うことが喜びでもあるがコロナ禍でその機会が減ってきている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者それぞれの希望するかかりつけ医に受診し、受診時はバイタル、状態を手紙やFAXで報告を実施。ご家族対応ができない時は職員が対応し結果は都度ご家族に報告している。コロナ禍で職員が対応で受診を行っている。	基本的に、もともとのかかりつけ医に家族の協力を得て受診をしていた。コロナ禍で職員が対応している。訪問診療を受けている人もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態をワーカー日誌に記録、GH看護師に相談し対応している。又併設の特養看護師に毎日、状態報告している。夜間の急変時にもオンコール対応で相談、指示を受けながら適切に受診や対応が出来るようしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	国東市民病院の医療連携室と連絡を取り合い、情報の共有、交換をして早めの退院が出来るよう繋げている。日頃より何かあれば相談できる関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に契約書で看取り指針に沿って説明をしている。今まで看取りの方はいないがご本人ご家族の希望する終末期が迎えられるように支援に取り組んでいきたい。法人内の勉強会に参加して看取りについての理解を深めている。	入居時に家族に説明を行っている。重度化した時は家族と話し合い、希望する終末期が迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎日のご利用者の状態、変化の報告を特養看護師報告をしている。急変時には連絡し対応できる体制にある。また急変、緊急時の対応については看護師の定期的な勉強会に参加し理解を深めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回避難訓練をご利用者を含めて実施している。年に1回の地域の消防団と消防署立ち合いの下合同訓練を行い気付きや意見をいただき活用している。他緊急連絡網があり通報訓練も実施している。	定期的に避難訓練をおこなっている。自然災害についてはマニュアルを整備し全職員が理解している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者に対し声かけを変えたり、排便の確認等は大きな声で伝えない様プライバシーには配慮を職員間で注意している。また、不適切チェックにより各自で振り返りを行っている。	職員のチェック表を作成し、毎日振り返りを行っている。居室に入る時も必ず声掛けを行い、確認をとっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴の決定、レクリエーションの選択など自己決定ができるような機会を作っている。日常的の食べたいものを尋ね、食事作りに反映している。ご利用者にアンケート実施して出来る限り自己表現出来るよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には食事時間が決まっているが、特に朝食に関しては起床時間や気分が乗らない方は時間をずらして召し上がっている。昼食後の過ごし方も自由に昼寝をする方などゆっくりくつろぐ等希望に合わせた時間の過ごし方を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の衣類のをご本人に好みの物を準備していただいたり、買い物時には出来るだけ個人の好みに合わせたものを購入出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝、昼食はご利用者と手伝っていただきながら食事作りの機会を作っている。希望に合わせて献立を変更したり、季節の食材を利用し、時には中庭でランチをすることもあり、楽しみながら食事をする機会もある。テーブル拭き、お盆拭き、茶碗洗いを自分の役割として日常的にされている方もいらっしゃる。	朝と昼の食事は事業所内で作っている。できることをできる人に手伝ってもらい、畑で収穫した野菜を材料とすることもある。食べたいもののリクエストに応えることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量を記録に残し把握できるようにしている。好みや嗜好、嚥下能力におうじた食事形態を提供出来るよう工夫している。献立表は管理栄養士に評価を貰い献立に繋げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけや介助を行っている。毎月歯科の回診があり、何かあれば歯科衛生士に相談して受診に繋げる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一日の排泄パターンが分かるよう総合記録に残しひとり一人に合わせてさりげない声かけで失敗しない様配慮して自立に向け工夫している。ほとんどの方が布パンツ又は尿取りパット使用で時間に合わせて尿取りパットの大きさを変えている。	昼、夜とも自室のトイレを使い自立している人が多い。紙パンツを利用していた人が布パンツになった人もいる。夜間はタイミングを見計らい声掛けをしながら自立支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や繊維の多い食材を使用に努めている。排便確認ができない時は個別の状態に応じてオリゴ糖を使用したり、玄米ご飯を提供して出来る限り自然には排便できるよう工夫している。体操、運動や散歩などを出来るだけ働きかけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には午後から毎日入浴時間になっている。熱めの好きな方、ぬるめが好きな方など個々に応じて順番を替えたり拒否のある方には無理をせず、足浴や清拭に変更することもあり臨機応変に対応している。また入浴を楽しんでもらえるよう季節に合わせ、ゆず湯、菖蒲湯、など工夫している。	基本的には二日に1回の入浴となっているが希望があれば毎日でも対応できるようにしている。柚子湯やしょうぶ湯などでくつろげるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり一人の休むタイミングに配慮している。休む前のゆっくりした雰囲気作りや居室の温度確認。日中の活動や昼寝の時間等を配慮して安眠に繋がるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬ファイルがあり薬の情報が確認できる。変更時にはワーカージルに必ず記載時職員間で情報共有できるようにしている。薬の変更時の様子観察も記録に残すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人の生活歴を活かして楽しみが出来るよう工夫している。皿洗い、テーブル拭き、掃除等ご自分の役割りとして張り合いを持っていらっしやる方もいる。感謝の言葉を伝え喜びに繋げている。今年度は中庭で園芸作業療法として季節の花、野菜作りに挑戦して喜んでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出支援が難しく行事等も中止になっている。感染状況を見ながら予防対策徹底し、ひまわりドライブ、紅葉狩りに出かけ、ふるさと訪問で近隣の親戚の方と出会うことができ喜んで頂いた。苑の敷地内の散歩には積極的に行き、季節を感じながら気分転換が出来るよう支援している。	コロナ禍でも日常的に周辺の散歩は出来ている。車で梅を見に行ったり、人気の少ない所に出かけたり、積極的に外出を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭管理は職員が行っている。コロナ禍でご利用者と買い物に出かけることが困難であるが、個別の買い物にご本人に支払っていただく事もある。買い物はご本人ご家族と相談し了解いただき購入している。出納帳は定期的にご家族に確認していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの連絡は都度取り次いでいる。時には他の連絡時に代わりお話しされる事もある。手紙やメールの届く方にも支援し大切なご家族との繋がりを途切れないよう努めている。また携帯電話を持たれ、自由に連絡が出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースが中央に設けられご利用者が自由に集える場所、また柔らかめの素材の床で使用し安全に過ごせるようになっている。台所は対面式で職員とご利用者が会話を楽しんだり一緒に料理をしたりできる環境になっている。温度、湿度管理をして快適な空間作りに努めている。中庭に季節の花や野菜を植え季節を楽しむよう工夫している。	廊下には毎月の行事の写真が貼られ、忘れない工夫がされている。デッキの外に中庭を設け、季節の花や野菜を育てている。収穫した野菜で調理し、楽しみの一つになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはご利用者同士の性格やテーブル・椅子の高さに合わせ席を設けているがご利用者が思い思いに自由に過ごせるような環境作りにも配慮している。気の合う方同士で会話を楽しまれたり、離れた席で静かに過ごせる空間もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていたものを持ち込まれ快適に過ごせるようにしている。写真やマッサージマットを使用されている方、ご本人が編まれたカーディガンや毛糸を持ち込まれ安心した生活が出来るよう配慮している。愛用の布団、毛布を使用されている方もいらっしゃる。	自宅からテレビや写真、マッサージマットなど持ち込み、自分らしさを醸し出している。洗面台には専用の歯磨きや化粧品を置き、壁面には家族の写真が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置やドアの開閉、照明のスイッチ、一日の流れなどが分かるよう表示し自立した生活が送れるよう支援している。出来る事出来ない事を見極めながら声かけし安全に生活が送れるよう工夫している。		